

IYS で学んだこと ～先輩の声～

私は、大学1年の時にIYSの団員となった。IYSでの活動に参加したかった目的は今でもはっきり覚えている。将来、国際協力の道に進む素質があるのか知るため、またその道に進む覚悟を持つためである。

IYS 団員として活動を終えた後、大学を卒業、国際関係学を学ぶことができる大学院に進学し、青年海外協力隊に参加した。帰国し、4月からは国際協力の一端を担う仕事に就く。

改めて振り返ってみても、IYS 団員として1年間活動したこと、スタディーツアーでマーシャル諸島へ行ったことが、私の原点になっている。マーシャル諸島でマーシャルの人々と会話できたこと、現地の暮らしを体感できたこと、国際協力の現場で活動している人に出会えたことは、非常に貴重な経験だった。もしIYSの団員になっていなければ、私の中での、国際協力に関わりたいたいという漠然とした思いは明確な意思に変化することはなく、まったく別の道に進んでいたかもしれない。

IYS 団員として活動できる範囲や期間はそんなに多くはない。週1回の講座や10日間の海外研修、そのみである。しかし、凝縮された短い期間に、異なるバックグラウンドを持つ団員や、様々な分野で活躍されている講師の方、IYS事務局の職員、また市民の方から学ぶことは当時大学1年だった私にとっては非常に大きかった。

インターネットの普及により、私が子どもだった頃よりも様々な情報を簡単に手に入れられるようになった。しかし、どれだけインターネットが発達しても興味があること、疑問に思ったことを実際に自分自身が経験するという体験は何ものにも代えられない価値があると思う。IYSの団員であれば、なかなか学ぶ機会のない人権について考える機会や、普通の旅行では決して知り得ない情報や味わえない体験を得られる。是非、IYSの制度を利用して多くの方々に貴重な経験をしてほしい。(2010年マーシャル諸島スタディーツアー団員 H.Aさん 大学1年)



私はインターユース堺に入団し、たくさんの人と出会い、いろんな経験をし、自分自身が成長できた1年間でした。

毎週の研修では新たに学ぶこと、改めて考え直すことが多々ありました。その中でも堺市の同和問題、アイヌ民族、LGBTなど、当事者の方からのお話は自分の中でとても心に刺さるものがありました。今まで自分が無意識に使っていた「当たり前」、「ふつう」という言葉の重みを考える機会になりました。

また、夏期の台湾研修では原住民族の方と関わり、個人のテーマを調査しに行きました。お互い言葉が通じなくても、食事や遊びを共にし、笑顔になれたことは私にとって貴重な経験となりました。原住民の方が、自分たちの伝統や文化を大切にしていることを強く感じました。

私はこれから小学校教員として勤めます。IYSで学んだことを自分の中で留めておくのではなく、今度は自分が発信者となってたくさん子どもたちに伝えていきたいです。(2017年台湾スタディーツアー団員 N.Mさん 大学3年)



マーシャル諸島へ行ってから十年が経ったが、ふとしたときに思い出す。仕事や旅行等で自分と感覚の違う人と出会ったときに特に思い出す。そして、「みんなが自分と同じ感覚を持っているとは限らない。ましてやその感覚がいつも正しい等と思ってはいけない。」と自分自身に言い聞かす。

これは、IYSの団員として実際に未知の土地に行き、様々な考えを持つ人と交流できたからこそ得られた感覚だと思う。(2009年マーシャル諸島スタディーツアー団員 I.Tさん 大学生)



私は堺市で教員をしています。社会人として IYS の活動をするにとっても抵抗がありましたが、今では、IYS の活動に参加して本当によかったと思っています。IYS の活動で学んだ私は、目の前にいる子どもたちの行動や事実だけで指導したりするのではなく、「なぜこんなことをしたのだろうか」「何か背景があるのでは」「言葉の裏に隠されているものは？」等、以前よりもさらに、深く様々な角度から子どもたちのことを見たり考えたりするようになりました。

さまざまな子がいるクラスの中には、色んな事情を抱えた子どもたちがいます。その子たちに寄り添う担任をめざして指導してきた私ですが、IYS の活動をきっかけに考え方や物の見方が変わったことで、以前よりももっと子どもたちとの関係の築き方が良くなったのではと思っています。

そのように考える理由として1つめは、座学での講師の方から教えていただいた知識です。人権問題は、日本にも世界にもたくさんありますが、「自分では知っているようでも全然わかっていなかった」ことがたくさんあったことに気がきました。LGBT や同和問題など、言葉で聞いたりなんとなく認識していたりする事でも、自分が知っていることは上辺だけで、深い根があり、自分でもそんなつもりはないのに偏見をもっていたことを知りました。また、当事者の思いなどを聞いたことで、一方的な思い込みや考えをするのではなく、様々な物の見方や考え方がよりできるようになったと感じます。

2つめは、スタディーツアーでの経験です。私は台湾にスタディーツアーに行きました。長い期間現地に赴き、その地の人たちと関わり、現地の空気を吸い、現地で生活することで、知識だけではなく、実態をともなって感じる事がたくさんありました。特に、言葉が通じなくても、遊びや食事で交流することで、現地の人たちの人となりやあたたかさを感じることができました。そしてそれは、私の意識を変えました。以前は、「台湾統治の問題は日本が昔行った問題」という意識であったのが、「今でもその統治問題を感じられる部分に触れたことが、他人ごとではない問題」として感じるようになりました。(2017年台湾スタディーツアー団員 N.Tさん 社会人)

私は大学生のときに、IYS 1期団員として、インド・スリランカを訪問しました。旅行では、なかなか行くことのできない地域を訪れ、現地の方と直接話をしたり、暮らしに触れることができ、本当に貴重な経験ができました。元々、大学で国際協力を学んでいて、いつか途上国を訪れたいと思っていた私は、堺市の広報で団員募集を知り応募しました。

IYS で印象に残っていることは、帰国後も何か支援を継続したいと考え、募金活動を試みたことです。自らが立案者となって、企画を現実のものにしていくことの難しさを知り、このことは学生だった私に、新しい視点を持たせてくれました。当時は、教育実習と就職活動の真っ只中で、将来のこととIYSの活動の両立に悩むこともありましたが、それでも、一緒に活動する仲間や事務局の方々のサポートのおかげで、自分のやりたいことを存分にやらせてもらえたと思います。

卒業後は、一般企業に就職し、その後中学校の教員として働いています。IYSの活動では、パワーポイントを使ってのプレゼンも多くこなします。報告書の作成にも力を入れました。大きな会場で報告する機会もあり、プレゼン能力が培われました。そして、現地のNGO団体を含め様々な人と知り合う機会があり、人脈が広がったことも、嬉しかったことの一つです。社会人になると人脈が役に立つこともたくさんあります。また、同期とは今でも連絡を取り合える仲間になりました。高校生から社会人まで、幅広い年齢層の人たちと関わり合えることも、魅力の一つだと思います。私の同期の団員たちも、今、様々な仕事で活躍しています。社会に出ると、これまでどんな経験や体験をしてきたかということが、自分の武器になっていると感じることがあります。体験から得たことや生まれた考えが、どんな仕事においても役に立っていると感じます。ぜひ、IYSの活動を通じて、自分の視野を広げてみてください。

(2005年インド・スリランカスタディーツアー団員 K.Rさん 大学生)

※ 学年等は、参加当時のものです。